# 振り込め標的の女性が体験談

## 冷静さ失い、心に痛み

### 西濃信金本部で講話

### 巧妙な手口、生々しく

1月に振り込め詐欺の被害に遭いそうになった無職鷲見孝子さん(80)＝本巣郡北方町＝が6日、瑞穂市馬場上光町の西濃信用金庫本部で、その体験を語った。犯人側からの電話での会話で冷静さを欠いた自身を振り返り、8金融機関の窓口業務の担当者ら約50人が耳を傾けた。（松田尚康）

1月下旬、自宅に警察官や全国銀行協会職員をかたる男から電話があり、現金の引き出しを指示され「窓口ではリフォーム代と言ってほしい」と伝えられた。鷲見さんは北方町内の郵便局で引き出そうとしたが、不審に思った局員の機転で警察に相談し、振り込め詐欺が発覚した。同署は鷲見さんにだまされたふりをしてもらい、現金の受け取りに来た無職少年(18)を逮捕した。

鷲見さんは当初、電話の内容を信じていたという。「（貯金を引き出す時は）『見守るから』と言われ、郵便局に足を運んでしまった」と述べ、冷静さを欠いていたと振り返った。どうにか難を逃れたが「犯人側は個人情報を把握し、巧妙化している。だまされないという確信は持てない」と吐露。「被害者が負う、心の痛みも計り知れない。サポートしてほしい」とも呼び掛けた。



鷲見孝子さん（手前）から体験談を聞く金融機関の行員や職員ら＝瑞穂市馬場上光町、西濃信用金庫本部

北方署が主催した。被害者や被害に遭いそうになった人が直接、自分の体験を伝えることは珍しいという。

無断複製・転載を禁じます